ご 挨 拶

本日は“A-Winds14”2004年春の演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。「こころ豊かな文化の香り高き町：大和郡山市」のお城の麓“やまと郡山城ホール”で、皆様方にこうしてお逢いすることができましたことにA-Winds一同心より感謝しております。
我々A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラは、1999年10月の発足と同時に活動を始めて以来1999年12月のデビュー演奏会を始めに4年半の間に13回の演奏会を開催し、おかげ様をもちまして団員も54名に成長することができました。これも皆様方の御指導、御支援あってのことと厚く御礼申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが、先日、高校吹奏楽部の恩師の退官記念演奏会に出演する機会が有りました。その場に集った卒業生の多くの方から、今も尚趣味として音楽に携わっている私が羨ましいとの言葉を耳にし、この恵まれた環境をあらためて実感するとともに、可能な限り現役で音楽活動を続けたいし、このA-Windsがその舞台であって欲しい、そんな思いが頭の中を掠めました。自分が現役で還暦を迎える日に、今までの中で一番の演奏会はと尋ねられる場面があれば、チャップリンじゃありませんが、“ネクスト・ワン！”と答えてみたいものです。

創団５年目を迎え、音楽面は勿論のこと、運営面も含む活動全般において、自分の代役は自分しかできないといった、団員一人ひとりが『主人公』の意識のもと、また新しい活動に繋がりますよう思いを込め、団員を代表しまして、一句詠ませていただきます。

桜でも　咲いてる時が　美しい

今後とも、暖かい御指導、御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ
団長　魚谷　昌克

本日はお忙しい中ご来場いただきまして誠にありがとうございます。

今回の演奏会は、“昔の吹奏楽小僧が選んだ珠玉の名曲の数々！　人によっては懐かしいかもねェ～(^o^)v”をキャッチフレーズに選曲してみました。

吹奏楽といえばまず思い浮かぶのが行進曲ではないでしょうか。昔の吹奏楽小僧はド・レ・ミを覚えるとやさしい行進曲をよく練習しました。そして吹奏楽コンクールの時期になるとこれも練習しやすいやさしいオリジナル曲をよく練習しました。今回はやさしくはありませんが昔の吹奏楽小僧にとって非常に懐かしい曲で始まります。そしてエンディングは吹奏楽小僧が青春を謳歌していた時代に日本中を虜にしていた作曲家の曲で幕を閉じます。

“懐かしい”と感じるメンバーがいます。
“新しい”と感じるメンバーがいます。

そういういろんな思いを指揮棒が振り下ろされると同時にひとつになって心を込めて演奏いたします。どうぞ最後までごゆっくりお聴きください。

最後に、本公演開催に当たり関係各方面より多大なるご支援賜りましたことを演奏会実行委員を代表して厚く御礼申し上げます。

“A-Winds14”2004年春の演奏会　実行委員長
大西　善郎

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ

Piccolo
佐藤　由加里
Flute
佐藤　司
魚谷　陽子

Oboe
上嶋　悠子
中村　紘子

Eb Clarinet
長尾　恭子
Bb Clarinet
畑澤　淳子
初岡　ゆき※
福田　彩
辻　美保
植田　洋美
竹村　明恵
日置　久美※
森本　幸恵
土谷　聡子
中川　勉
Alto Clarinet
大西　晴巳
Bass Clarinet
佐藤　浩史

Bassoon
萱原　美華子
満江　孝文

Alto Saxophone
行政　美智子
島田　博一
Tenor Saxophone
初岡　和樹
Baritone Saxophone
奥田　ひろみ

Horn
小川　貴子
日置　澄人※
久野　耕三
次田　哲平
小林　計昭

Trumpet
魚谷　昌克
大西　伸幸
國元　昌広
表　恭子
吉川　茂宏
篠木　章江

Trombone
萱原　淳嘉
上田　純子
水谷　匡希
中井　麻記子

Euphonium
大西　善郎
中村　雅美

Tuba
平野　幸子
室安　望美

St. Bass
吉田　康子
栗岡　まさみ
井村　誠貴☆

Percussion
平井　晶
下村　智子
板垣　麻子
辻　歩
久保　寛美
川本　理恵

Piano
八木　真木

Stage Manager
河村　穣香

※休団
☆特別出演

A-Winds メンバー募集

フルート１名、ステージマネージャー１名
A-Windsの活動の趣旨（ウィンドアンサンブル＆オリジナル重視）に賛同頂ける方　自分で楽器が準備できる方　全ての活動に積極的に参加できる方　18歳以上の方

A-Winds SINCE1999
NARA AMATEUR WIND ORCHESTRA

2004年 春の演奏会

2004年3月14日（日）14:00開演
やまと郡山城ホール大ホール

主催●A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ
後援●大和郡山市 大和郡山市教育委員会 奈良県吹奏楽連盟

プログラム

第１部

●指揮：魚谷昌克

行進曲「旧友」
Alte Kameraden Marsch
C. タイケ
C. Teike

吹奏楽のための民話
Folklore for Band
J. A. コーディル
Jim Andy Caudill

ムーアサイド組曲
A Moorside Suite
G. ホルスト
Gustav Holst
第１楽章：スケルツォ
Scherzo
第２楽章：夜想曲
Nocturne
第３楽章：行進曲
March

休　憩

第２部

●指揮：佐藤司

オリンピック・ファンファーレ＆テーマ
Olympic Fanfare and Theme
J. ウィリアムズ
John Williams

歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲
Intermezzo Sinfonico
P. マスカーニ
Pietro Mascagni

エル・カミーノ・レアル
El Camino Real
A. リード
Alfred Reed

曲　解　説

［行進曲「旧友」］

カール・タイケ(1864-1922)は、100曲にものぼる行進曲を作曲しましたが、それらの中では、この<旧友>が最もよく知られ、この作品によって彼の名が残されたといえなくもありません。19歳の時に南ドイツの軍楽隊に入隊した彼は、そこで打楽器やオーボエを演奏するかたわら作曲もし、除隊後も他の仕事につきながら作曲をつづけました。この<旧友>は、彼がまだ軍楽隊にいた、1886～88年ごろに作曲されたようですが、軍楽隊長にはまったく認めてもらえず、徐隊後に出版されてからたいへんな成功を収めました。曲は、変ニ長調で書かれたもので、トリオをもつ行進曲の典型的なものですが、そこには、19世紀末のドイツをそのまま反映したようなところも感じられます。

［吹奏楽のための民話］

コーディルは1931年アメリカケンタッキー州に生まれ、少年時代からコルネットを、高校時代からは作曲も学びました。公立高校の教師を経てケンタッキー州のバイクビル大学の助教授もつとめました。吹奏楽スクールバンド界にやさしく楽しく演奏出来る優れたレパートリーが限られていた頃、この曲が突如と現れたのです。
この曲は、タイトルのように民謡風の表情豊かな数々のメロディが散りばめられており、昭和40年に初めて日本に紹介されて以来、吹奏楽曲の代名詞のように親しまれています。
冒頭はトロンボーン、ユーフォニウム、低音の木管群によってｆで奏されます。テーマのクラリネットのメロディーが日本人の魂をくすぶります。金管楽器のハーモニックスな響きを中心とした旋律と、木管楽器の軽快な動きを利用した旋律をもってイギリス的な感覚でバグパイプ的な感じをさせる場面もあり、途中に日本のわらべ歌を思わせるような旋律もあり素朴で非常に親しみやすい曲に作られています。
民謡を思い浮かばせるこの曲は、一躍大ヒットとなり今でも日本のあちらこちらで演奏される名曲中の名曲なのです。

［ムーアサイド組曲］

この曲はグスターヴ・ホルストがブラス・バンドのために作曲した唯一の曲です。1928年にロンドンのクリスタル・パレスで行われた全英ブラス・バンド・フェスティバルの決勝戦の課題曲として作曲されました。第1楽章の「スケルツォ」は、かなりの技巧力を必要とする6/8拍子の舞曲です。第2楽章「夜想曲」では、終始曲を織りなしている美しい旋律もしずかな上がり下がりがあります。その旋律は１つの独奏楽器からべつの独奏楽器にうけ渡され、ついには全奏者が合流して、静かな広がりの感じを出します。終楽章「行進曲」は、冒頭の華々しさから疲れを知らないような軽快で敏捷な歩調にいたるまで、あらゆる奏者が与えられたパートから最高の喜びを引き出せる素材がいっぱい詰まっています。‘大型’の旋律が静かに始まり、ものすごい迫力で盛り上がってゆき、燃えさかるばかりの壮麗さとなって曲をとじます。ムーア・サイドとは、「ムーア（荒地）のほとり」という意味。ホルストが心の中にいだいていた‘ムーア’moor（荒地）は、イングランドの北東部ヨークシャーにおけるワイルドで厳しい感じのする地方です。

［オリンピック・ファンファーレ＆テーマ］

『スター・ウォーズ』『スーパーマン』『E.T.』などハリウッドを支えるアメリカ映画音楽界の巨匠作曲家としてのみならず、ボストン・ポップス・オーケストラの音楽監督を長年務めたことでも知られるジョン・ウィリアムズが、1984年にロサンゼルスで催されたオリンピックの開会式を飾る音楽として作曲したファンファーレの名品。マエストーソ（荘厳に）という指示のある勇壮なファンファーレ部分と、『E.T.』の旋律を思わせる優美なテーマの対比が見事で、やがて２つの要素が発展し祝祭的なクライマックスを迎えます。尚、この開会式では背中に仕込んだジェット噴射装置で空中遊覧を披露し度肝を抜いたＮＡＳＡ開発の飛行システムによる演出とともに、この曲が観る者に強烈な印象を与えたことはいまだ記憶に新しいことと思います。

［歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲］

ピエトロ・マスカーニ(1863～1945)はイタリアの作曲家で、ミラノ音楽院でポンキエルリに師事しました。マスカーニは1889年にソンツオーニョ音楽出版社が懸賞募集したオペラに1等で入選し、1890年にローマで初演されて大成功し、それによって一躍有名になりました。その1等に入選した歌劇がこの「カヴァレリア・ルスティカーナ」で、シチリア島の村の人々の間でおこる三角関係の悲劇を描いた歌劇です。歌劇は一幕ものですが、中間で舞台から登場人物が去って誰もいなくなる部分があり、そこで演奏されるのがこの“間奏曲”です。そのあとにおこる決闘シーンとは無関係のような天国的な美しさを持つ間奏曲で、またそれがあるため、あとのシーンがよりむごたらしく感じられるように作曲者が計算したのかも知れません。

［エル・カミーノ・レアル］

エル・カミーノ・レアルとは、スペイン語で“皇道”又は“王道”という意味で、つまり“武力や権力によらず、王者や皇帝の仁徳によって国を治める”ということであります。サブ・タイトルとして、“ラテン幻想曲”ともつけられています。曲は典型的なスペインのフラメンコ風なコード進行ではじまり、3/4拍子の情熱的なリズムの上にホルンが主旋律を奏で、木管でくりかえされ、トランペットの第２テーマもあらわれます。中間部はゆっくりとしたテンポでオーボエのソロから開始され、7/8拍子や5/8拍子等でゆったりした哀愁をおびたメロディがつづきます。そして再び速い主部にもどり、もり上がって終わります。この曲はアメリカ第581空軍バンドとその隊長レイ・トーラー中佐から委嘱をうけて1985年はじめに完成し、その年の4月15日フロリダ州サラソタの空軍基地のコンサートでトーラー中佐の指揮、第581空軍軍楽隊の演奏で初演されました。

ご　案　内

"AWind35" 2004年　夏の演奏会
2004年6月20日（日）14：00開演
皆様のご来場お待ちしてます